

Library News

2025 ver.Spring

もくじ

高校生にオススメの本特集…4～8P

本のおすすめPOPガイド…9～15P

先生方へのインタビュー…16～18P

小説…19～26P

編集後記…27P

高校生

にオススメの本特集！

新たに高校生になった新1年生、進学した2、3年生たちに
オススメの本を集めてみました。ぜひ読んでみてください！

迷ったらここから



エッセイ、ブックガイド



『^{ほん}本へのとびら』 ^{みやざき}宮崎 ^{はやお}駿

まず、紹介するのはジブリなどで
おなじみの宮崎駿監督の本です。
この本は様々な本を紹介していて、
ジブリ映画の元になった本もいくつ
か紹介されていて、とても読みやす
いです。

読みやすさを求めて



小説



『カラフル』 ^{もり えと} 森 絵都

「読みやすい本」と調べてまず出てくるのがこの本です。日ごろ読書をしていない人はこの本から始めるのがおすすめです。死を取り扱った作品ですが、結構明るいテンポで書かれているのでどんな人でもよめます。

小説



『^{りゅうせい}流星の^{きずな}絆』 ^{ひがしの けいご} 東野 圭吾

東野圭吾さんの本はどれも読みやすく、お気に入りですが、中でもこの作品は横須賀が舞台で特に印象に残っています。また、ドラマ化などもされているのでドラマを観てからこれを読むのもいいかもしれません。



同い年の主人公



小説、人生訓



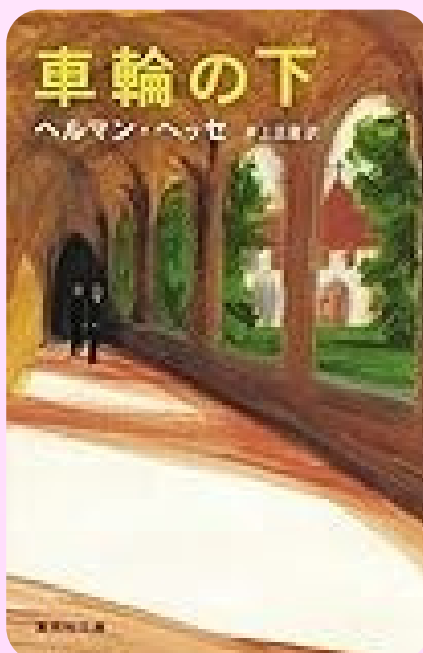
『君^{きみ}たちはどう^い生きるか』 吉野 源三郎^{よしの げんさぶろう}

この作品は、ちょうど思春期の少年の悩みや葛藤が描かれていて、高校生の私たちと共感できる部分があり、考えさせられました。

小説

『車輪^{しゃりん}の下^{した}』

ヘルマン・ヘッセ



この作品は「君たちはどう生きるか」と同じような内容の作品ですが、舞台がヨーロッパということもあり、文化の違いを感じて新鮮でした。また、「少年の日の思い出」と同じ作者でもあるので馴染みがある作品だと思います。



小説

『夜のピクニック』 恩田 陸

この作品は高校3年生が主人公で
まだ共通する部分が少ないかもしれませんが、
高校生の間関係や心情で
共感する部分が多く、高校生なら全員
楽しめる本だとおもいます。



教科書から



小説、文学



『芥川龍之介の「羅生門」「河童」』 芥川龍之介

この本の中の「羅生門」という作品は授業で習う、もしくは習った作品でしょう。この本はその「羅生門」という作品をさらに深掘りしてくれていてなかなかハマります。他の作品も深く解説していて面白かったです。

古典、説話物語



『宇治拾遺物語古本説話集』

こちら、この中の「ちごのそら寝」という話を授業で習う、または習ったと思います。新一年生は予習に、二 三年生は復習にあてて読んでみてください。



本のおすすめPOPガイド

図書企画委員が作ったおすすめ本POPを大公開！

目次

- 1 POPって何？
- 2 『母という呪縛 娘という牢獄』
- 3 『世界が赤に染まる日に』
- 4 『ねこねこ日本史』
- 5 『封神演義』
- 6 POPの作り方

POPって何？

本のそばにあって、「この本、おもしろいから読んでみて」と読者に語りかけるのがPOPです。

POPって、じつは1枚の紙に限らないと思います。自分で本を探せない人に「おすすめの本」「読んで損のない本」を示してあげるのがPOPだとすれば、書店の店頭やランキング、図書館の展示なども広い意味でのPOPと言えます。

本来は、本の中身を表現している表紙そのものもPOPだし帯もPOPです。それでも、さらに紙のPOPが必要とされているのは、本を選べなくなっている時代だからこそ、明確な「道標」が求められているということでしょう。

本は自分でその良さを読み手に伝えることができないので、良い所を言語化して、かわりに伝えてあげる。長所を伸ばして短所を補うPOPは、いまや必要不可欠なものになりつつあります。

今回のPOP紹介を見て「この本を読みたい」と思っただけなら嬉しいです。記事の最後にはPOPの作り方もご紹介していますので、ぜひ自分のお気に入りの本を題材に、オリジナルのPOP作りに挑戦してみてください！

絆がもたらす 愛と呪い

本の内容について

滋賀医科大学学生母親殺害事件。
加害者は被害者の実の娘であり、娘は母親に幼少
期からの虐待を受けていた。
この本は、著者が加害者であるあかり（仮）と実際
に面会した時に語られた、あかりの過去が書かれて
いるものである。

内容は母親による「娘の虐待」とかなり重めだ
が、現代の親子像とリンクする場面もあるので、
それも相まってかなり深い内容になっている。
大人向けの本ではあるが、これから母親、父親に
なっていく高校生にも是非読んでほしい
作品だと言える。

虐待、それは言葉で聞くよりも重いものである。
ひかりは何故母親殺害に至ったのか。
是非この本を読んで確かめて見てほしい。



POP制作者コメント

私はこのPOPを制作するにあたって、虐待、共依存、
終わらない勉強といった内容表現するために
試行錯誤を繰り返しました。
ここでは、そんなPOPの工夫点を紹介したいと思います。
まず手のイラストです。これは手を掴まれている構図にするこ
とで母による娘の呪縛を表しています。
そして母親は娘に殺されてしまっている為、娘の手を掴んでい
る母親の手は色を塗っていません。
次に台紙です。
この本の閉鎖的な雰囲気を表せるように白を選びました。
次に、黒い見出しです。これはこの本の全容を詰めた
言葉になっています。
実際に本を読んだ時に、この見出しの意味が伝わるというな
と思っています。
そして最後に、背景にある文字です。
ここに書いてある文字は、実際にWikipediaに掲載されて
いる滋賀医科大学学生母親殺害事件の内容に少し手を加えた
ものになっています。
Wikipediaの文を引用することによって、ノンフィクション
だということを暗示しています。
以上がこのPOPの工夫点です。

『世界が赫に染まる日に』 著者 櫛木理宇

罪と復讐の 果てに少年 が見た真実 とは

本の内容について

私がこの小説を読む時に意識して欲しいポイントが2つあります。

1つめはテーマの深さ：作品は人間の内面や社会の闇を描写しており、個人の葛藤や人間関係の複雑さがテーマになっています。

2つ目は象徴的な表現：「赫に染まる」という表現が象徴するものは何か、色彩やイメージがどのように物語に影響を与えているかを考えると、より深く理解できると思います。この2つを意識しながら是非この「世界が赫に染まる日に」という作品を楽しんでいただきたいと思います。

「世界が赤に染まる日に」

著者：櫛木理宇

あらすじ
従兄妹を蹂躪した中学性転換者の復讐を誓う櫛木と、15歳で命を絶つまで彼の復讐に協力すると決めた文様。二人は少年法に守られ裁かれず、犯罪者たちを一人ずつ襲っていくが、その行状は次第にエスカレートし、彼らの運命も狂わせていく。果てして

おすすめポイント
衝撃的なテーマ、少年犯罪と復讐という重いテーマを扱い、読者に深い問いを投げかけます。



POP制作者コメント

私がこのPOPではこの小説を読む覚悟を持って接して欲しいという事です。この作品は赫という抽象的な色が題名に入っていますがこの漢字の意味をご存知でしょうか？赫とは主に相手に対し威嚇をする時に使われる漢字になっています。なぜこの漢字が題名使われているかと言うと世界対し威嚇し嫌悪感を抱いているこの物語を表しているかだと考えています。この様に1つの漢字の意味を考えるだけでもこの物語の背景を知る事ができます。なのでもしこの物語を読むなら読者がキーワードだと思う所の意味を調べてこの物語の先を想像して読んで欲しいのです。なので大変読むのに覚悟がいると思いますが、読み終わ時に後悔はさせません。ぜひ読んでみてください。

ねこで学ぶ日本の歴史!



POP制作者コメント

こんにちは！わたくしです。今回は「シンプル！可愛い！インパクト！」を意識しました。やはり、癒しは世界を救うとわたくし思うんです。それは勉強にも然ります。猫に癒されつつ歴史を知り、楽しく学んでみてはいかがでしょうか。ちなみにわたくしは中大兄皇子が大好きです(へ・)ー☆

本の内容について

「猫」それは最高の生き物であり最高の癒しとなる。ところで皆様は歴史に興味はあるかな？暗記出来ない！眠い！となる方達が多いと思う。では、猫とかけてみたら？そう最高に面白い話になるのだ。

「猫 × 歴史」是非ご覧下さい！

『封神演義』著者 ハ木原一恵

仙界と人界を巡る、壮大な 神話バトルの幕開け！

本の内容について
中国が舞台の作品
なので、その国特有の文化や歴史にも触れていてとても興味深い作品です

この作品を題材にしたアニメ化作品や漫画作品も多くあるので、興味があったら調べてみるとますます楽しめると思います！！

封神演義

ハ木原一恵
・編訳

—— 時は三千年前、殷の紂王に女狐憑依された絶世の美女が
ヒリつく！？ それにより、政治は はちゃめちゃ!!
忠臣も次々に殺し 乱世へと——

史実の殷周易姓革命
が舞台!!
中華ファンタジーが
好きな人に おすすめ!

仙人や道士、妖怪
が人界と仙界を二分して
繰り広げる 大戦争...



POP制作者コメント

このPOPの注目ポイントはタイトルです！
タイトルが個人的にかっこよくて好きなので、POPを見たときに印象に残るように意識して書きました！
書いているときにどうしたらストーリーの面白さを表現できるのか、伝えられるのか、とても悩みました！あまり器用なほうではないので、凝ったものはられませんが、この本の魅力が伝わるようにインパクトを意識して作りました！！

POPの作り方

まずは描いてみよう！
POPでアイデアを形にする楽しさを体験

参考文献:『気持ち伝わるPOPを作ろう』著者 内田剛

道具について

- ・①サインペン
- ・②色画用紙
- ・③ハサミ
- ・④のり
- ・⑤カッター
- ・⑥定規
- ・⑦マスキングテープ

この本は図書館で借りられます！

目的を考える！

「誰に向けて書くのか」
「誰に伝えたいのか」を考
えて書くと言葉が浮かんで
きやすいです。

その本と出会ったきっかけを
POPにしてみるのも、オス
スメで相手の心に響く素敵
なPOPができますよ！

POP作成のポイント 「アイウエオ」

- ① **アクセント** …強調する
- ② **インパクト** …印象を与える
- ③ **ウェルカム** …作品によりそう
- ④ **エンジョイ** …楽しむ
- ⑤ **オリジナル** …自分の言葉で

POP作成の流れ

「よいえかきは立ち止まらせる」

よ = 読む **工夫**
い = イメージする **色**
え = 選ぶ **カタチ**
か = 書く・描く **キャッチ**
き = 切る **デザイン**
は = 貼る **立ち読みポイ
ントなど**
たちどまらせる
= 立ち止まらせる



先生方へのインタビュー

今回、国語科の先生方に春に読んでほしいオススメの本についてインタビューしました。春から新学期を連想して新学期を楽しく過ごすために役立つ本や春に読みたくなるころころ温まる本などがあります。

先生からのオススメポイントやコメントも頂いたため、本選びの参考にしてみてください。それと同時に図書室でお会いできることを楽しみにしています。

廣田^{さとし}智司先生

・ オススメの本

『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ
文、マンガ:Jam



・ おすすめの理由

「この本は人間関係や環境の変化によってしんどい思いをしたときに読むことができるから。

しんどい思いを対処する方法としては上手に自分自身と関わることや他人との折り合いを付けることが代表的なものだと思う。

それらのコツが書かれていたり、ヒントが隠されている為、春に読んでみてね。そういう本は読みにくいと思っている人でも大丈夫！

四コマ漫画で分かりやすいから誰でもいつでも見れるよ！」

・ 先生からのコメント

「皆さん、新学期はどのように過ごしていますか？

進級・進学による環境の変化やそれに伴うに人間関係のストレスなどがあったら、この本を読んで対応、息抜きしてください。

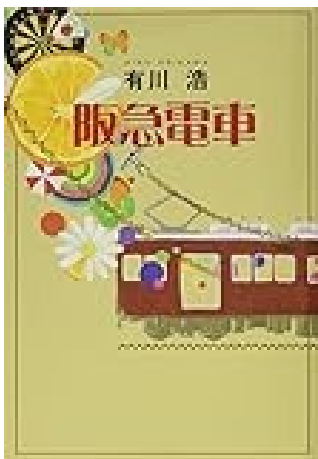
自分もこれを読んで救われた経験があるため、心が疲れた時やそうでないときでも、ぜひこの本を読んでみてください！」

山口啓太先生

- ・ おすすめの本
『砂漠』 いさか こうたろう 伊坂幸太郎



- ・ おすすめの理由
春夏秋冬を扱っていて青春もので、
春におすすめだとこの本。
あと、先生の好きな作家がこの人だから
- ・ もう一つのおすすめ



はんきゅうでんしゃ
『阪急電車』
ありかわ ひろ
有川 浩

春の小説

今回の小説は「レトロ」をテーマに描いてみました。

自信を持って仕上げたので是非楽しんで読んでください！！

夢幻のバーテンダー

著者：詩季

薄暗く街灯が照らすとある路地。そこにそのバーは存在する。

近くにはランタンに引き寄せられてきた^{こがれいろ}黄金色の蝶が飛び交い、店の中から漏れ出した光は、扉窓の色とりどりのステンドグラスを介して幻想的に輝いている。看板には店の名前であろう「幻想バー」なる字が彫られている。

そしてその看板の下に小さく、赤い字で書かれた張り紙がしがみついていた。

「店内で飲み物のお代は頂きません。その代わり、お客様の店内での記憶を頂きます」

工場からくゆる煙と、濁った川^{にご}の匂いが充満する夜道で。ふと、一人のボロボロのコートを着た男が違和感を憶え、立ち止まる。男は出稼ぎでこの街にきた者で、今はその仕事の帰り道だったが、さっきまで眼中にもなかったその輝くバーに魅^ませられ、歩みを止めたのだった。

「……なんだ、ここ？こんなバーがこの街にあったんだな」

最近まともに休む時間を取れていなかったその男は、たまには酒を飲むのも良いかと店に向けて歩みを進めた。

男は財布を確かめようとしたがやめた。何故なら看板の下の張り紙に、代金は取らないと書いてあったからだ。男は最後の「お客様の記憶を頂く」という文章が理解できなかったが、気になってもしようがないと思い、とりあえず中へ入っていった。

チリン……

人っ子一人いない閑静な店内。洒落たシャンデリアが煌々と照らすカウンターで、その女性は気だるげに頬杖をついていた。赤いシャツに灰色のベストと黒いネクタイを合わせ、眩いばかりの金髪は刈り上げていて、一見男性にも見えるが、片耳に覗く碧い雫のピアスが、女性の何とも言えぬ怪しげな魅力を引き立てていた。女性はしばらく片耳に揺れるピアスをくるくると指で弄っていたが、男に気が付くと一変して妖艶な笑みを浮かべた。

「いらっしゃいませ。このバーに来るのは初めてですね？」

「ああ、最近は仕事で忙しくて全然酒を飲む時間も取れなかったし、ここらで飲んでも罰は当たらないかと思ってね。ここではどんな酒を出してくれるんだ？」

「お客様に何か特別なご要望があればそのお酒を出しますが、基本的に私の店

ではお客様の近況や悩み事を聞き、その話に合ったカクテルを出しているのですよ」

「へえ、代金を取らない上に随分と面白いことをやってるんだな」

「それが私なりの流儀なもので。ところでお客様は何か悩みや、最近あった面白い出来事などがありますか？」

男は話の途中で出されていた水を一口煽^{あお}ると、一度うーんと唸^{うな}った。

「そうだな、面白い出来事は直近じゃ起きてないが、悩みというか、最近思うことなら一つあるぜ」

「それはどんな？」

男は一瞬だけ顔を曇らせるとそれを感じさせない明るさで話し始めた。

「俺の顔、ここらじゃ見ない顔だろ？」

「確かにそうですね。ここの人たちは揃って色素が薄いですが、あなたは少し特殊です」

バーテンダーは改めて男の顔周りを観察する。少し濃い色をした肌に赤毛がアクセントを加えていて、元々はこの住人でないことが分かる。

「ああ、元は東部のほうに住んでいたんだが、訳あってここに稼ぎを求めに来

たんだ」

「なるほど、そうなのですか。失礼ですが、お客様は何を生業^{なりわい}としているのでしょうか？」

「炭鉱^{すみこうと}夫さ。5年前くらいにできたところでずっと働いているよ」

そこで男は注がれた水を一気に飲み干した。バーテンダーにもう一杯注ぐか聞かれるも断り、その代わりに男はエキゾチックな装飾をされたグラスを眺めていた。

「でも、それも続けようか今悩んでるとこなんだ。炭鉱夫は給料は高いが何かと危険の多い職業だ。それに俺はまだ罹^{かか}ってないが、長く炭鉱に居ることで肺の中が炭の粉だらけなっちまう病気もあるらしい。仕事してて死ぬなんて間拔けなことは俺はしたくねえ。俺には夢があるんだ。」

「さっきも訳あってここに来たと言っていましたね。それは夢のことでしたか」

「ああ、俺は音楽家になりたいくてな。ピアノを買いたくてここで出稼ぎしてるんだ。いつになるか分からないが、この願いは必ず……」

先ほどよりも神妙な顔になってそう呟く男のことをバーテンダーは黙って見ていたが、やがて作るカクテルが決まったのか、シェイカーと酒を用意し始め

た。

「貴方様にぴったりのカクテルを思いつきました。今から作りますね」

「お、そりゃあ楽しみだ」

そう言うと、男はわくわくした顔でバーテンダーの腕捌きを眺め始めた。

ライムを取り出して優しく果汁を絞り、そこから果肉が残らぬよう、丁寧にこす。金のシェイカーにホワイトラム、ライムジュース、ガムシロップを加えていき、八分目の高さまで氷で蓋をすると、ストレーナーとトップの順に閉め、十数秒軽くシェイクする。

最後に口の広いソーサー型のグラスにカクテルを流し込み、ライムの輪切りと小さなさくらんぼをトッピングすれば……

「ダイキリです。ごゆっくり召し上がってください」

男は若干の黄色を含ませた白いカクテルをゆっくり噛み締めるように飲む。ホワイトラムの甘い香りとライムの爽やかな酸味が絶妙にマッチし作り出すシンフォニー。時に甘く、時にシャープに感じるその特徴的な味わいは一瞬にして男の乾いた心を潤していった。

「！こりゃあ美味しいな」

「ダイキリの始まりは、キューバの鉱山である鉱山技師がそこで働いている者たちに作ったのが最初と言われています。カクテル言葉は『希望』。くじけそうでも、諦めない限り希望があるという願いを込めました。そして、仕上げに『小さな恋』を意味するさくらんぼを合わせました。地元にご好意を寄せている方がいるなら、早めに迎えに行かないとですね」

バーテンダーが綺麗なウインクを見せると、酔いによるものなのか、恥によるものなのか分からないが、男は顔をわずかに赤らめた。

「全部お見通しってわけか。はは、してやられたな」

言いながら最後の一滴を飲み干すと男は立ち上がってバーテンダーに硬貨を握らせた。すると、代金を支払われたと思ったバーテンダーは困惑してしまう。

「あ、あの、代金は……」

「良いんだ、原価には足りんかも知れんがチップだと思って受け取ってくれ。」

決心がついたように朗らかに笑う男を見て、さすがにこの善意は跳ね返せないと思い、微笑んでそのチップを受け取った。

「ご来店ありがとうございました」

チリン……。その音が響いたのが聞こえた後、バーテンダーは男から奪った、記憶の塊である白い泡を一息に吸い込み、咀嚼して飲み込む。これでここに居たという記憶を男は必然的に忘れることとなる。

もうあの男がこの店に来ることはないのだろうと、ふと寂し気に思いながら、体を双翼を持つ女性の物へと変えた。

「さて、明日の夜はどんなお客さんが来るのだろうか」

先の寂しさを取っ払うように陽気にそう呟くと、バーテンダー——もといモルペウスは天界への神々しい扉を開き、そこへ足を踏み出して行った。

編集後記

私が図書企画委員会に入ってから
初めて編集長を任されました。
思ったより時間がなく大変
でしたが、結構満足しています。
ここまで読んでくれて
ありがとうございました。

編集長

THANK YOU!

制作:図書企画委員会 広報班
(H.T, Y.T, K, I)

編集担当:I

イラスト:K

小説:詩季

編集・発行:湘南学院高等学校 図書企画委員会

発行年月日:2025年5月16日